

令和3年度 広島県病害虫発生予察情報 予報第2号（果樹）

令和3年6月4日発表（対象期間 令和3年6月4日～7月中旬）

※次回の予報は令和3年7月中旬ごろです。

もくじ

1	農薬危害防止講習会の開催について	…P.1
2- (1)	かんきつ病害虫の現況と予報（概要）	…P.2
2- (2)	かんきつ病害虫の現況と予報（詳細）	…P.3-4
3	果樹全般病害虫について	…P.4-5
4	向こう1か月の気象情報	…P.5

●PCでアクセス

広島県 ひろしま農業情報

掲載アドレス↓

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/nougijutsu/>

●スマホでアクセス

ひろしま農業情報 QRコード →



お問合わせ先

広島県西部農業技術指導所 植物防疫チーム
〒739-0151 東広島市八本松町原 6869
電話：082-420-9662（直通）

1

農薬危害防止講習会の開催について

広島県では、農薬による危害の未然防止を図るため、6月1日から8月31日までの3ヶ月間を農薬危害防止の重点期間と定め、農薬販売者及び農薬使用者に対する関係法令等の周知や農薬の適正販売、適正使用及び保管管理のさらなる周知・徹底を図ることとしています。今後の日程をお知らせします。

令和3年6月8日（火）三次市立十日市きんさいセンター（三次市）

6月15日（火）広島県情報プラザ（広島市）

6月22日（火）備後地場産業振興センター（福山市）

6月29日（火）呉市きんろうプラザ（呉市）

いずれの会場も、午前10時～12時、午後1時30分～3時30分の2回開催します。講習内容は同じなので、午前あるいは午後のどちらかを受講してください。

なお、新型コロナウイルス感染症の状況によっては、講習会を中止する場合があります。開催に関する情報は、上記の「ひろしま農業情報」の中でお知らせします。

●スマホでアクセス

農薬危害防止講習会に関する情報 QRコード →



病害虫名	現況	予報	防除上の注意事項（防除時期）
かいよう病	並	並	<ul style="list-style-type: none"> ●降雨前の予防散布を徹底する。 ●発病した葉や枝は伝染源となるので、速やかに樹上から除去する。 ●昨年度発病が見られたほ場や、新葉に発病が多いほ場では、銅剤による防除を早急に行う。
そうか病	並 ※一部発生	並	<ul style="list-style-type: none"> ●発病した葉や枝は伝染源となるので除去する。 ●多発しているほ場では、梅雨時期に防除を行う。
ミカンハダニ	やや少	並	<ul style="list-style-type: none"> ●梅雨明け直後の大発生を予防するため、梅雨明け前の晴れ間に高度精製マシン油乳剤を散布する。
ヤノネカイガラムシ	並 ※一部発生	並	<ul style="list-style-type: none"> ●幼虫発生期である6月中下旬に防除を行う。
アブラムシ類	やや多	やや多	<ul style="list-style-type: none"> ●発生が多い場合は薬剤抵抗性に留意して、追加防除を行う。
黒点病	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ●降雨前の予防散布を徹底する。 ●発病枝は伝染源となるので、速やかに樹上から除去する。 ●追加防除は、前回防除後からの累積降雨量が250mmを超えるか、前回防除後1か月経過したら実施する。

【発生量について】

「予報」「現況」は、「多、やや多、並、やや少、少」の5階級に区分しています。区分の方法は、原則として、過去10年間の同時期の調査結果の数値を発生が多かった順に並べ、相対比較しています。

- 「多」 : 1番目（最多年）と同程度以上
- 「やや多」 : 2～3番目と同程度
- 「並」 : 4～7番目と同程度
- 「やや少」 : 8～9番目と同程度
- 「少」 : 10番目（最少年）と同程度以下

①かいよう病



現況	並	予報	並
----	---	----	---

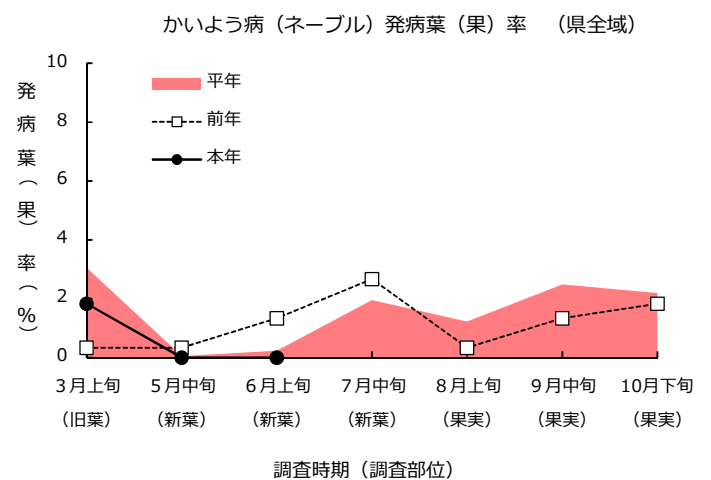
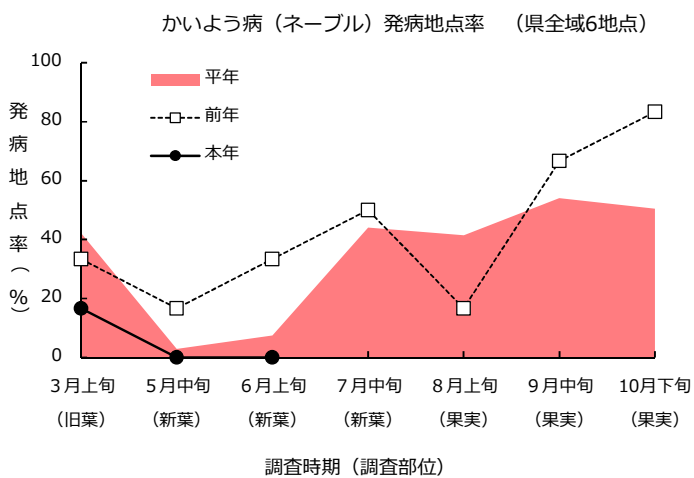
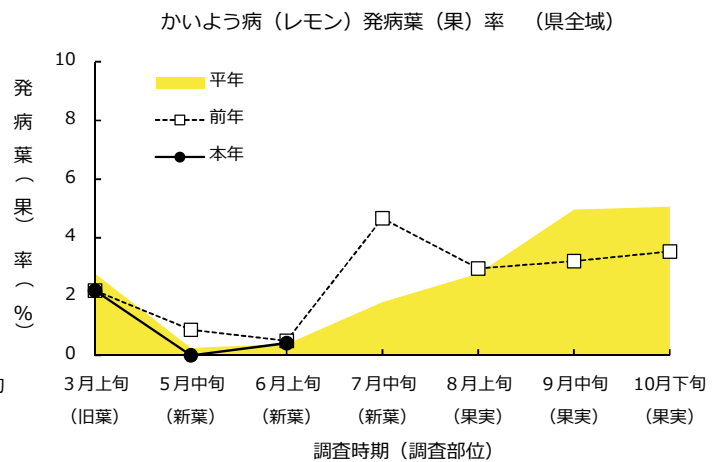
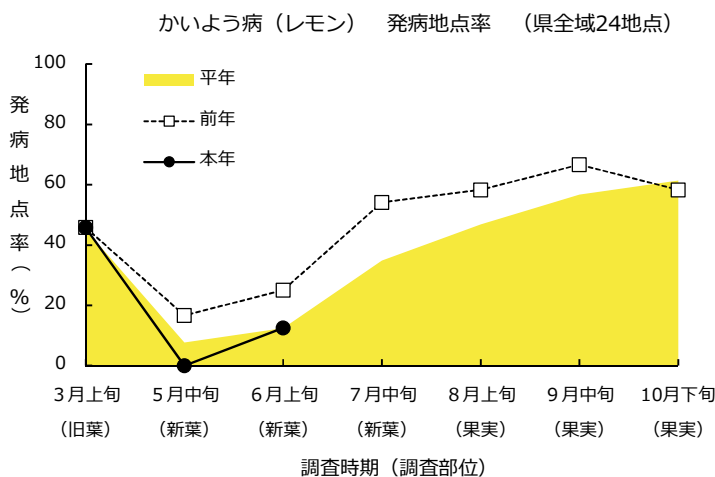
予報の根拠 (+) :多発要因, (±) :平年並み, (-) :少発要因

- 巡回調査では、発生は平年並みであった(±)。
- 向こう1か月の気温は高い確率が40%, 降水量は多い確率が30%, 日照時間は少ない確率が30%と予想されている(±)。

【防除上の注意事項】

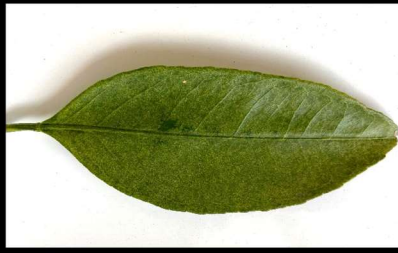
- 巡回調査では、罹病した旧葉が見られたので、速やかに樹上から除去するとともに基幹防除を徹底する。
- 銅剤散布に当たっての注意事項
 - ・高度精製マシン油乳剤との散布間隔は14日以上空ける。
 - ・マンネブ剤, マンゼブ剤とは混用せずに散布し, これらの剤との散布間隔は7日以上空ける。
 - ・無機銅剤(コサイドなど)の散布を行う際には, クレフノン(希釈倍数:200倍)を加用する。
 - ・高温時の散布を行うと薬害を生じやすいので注意する。

【巡回調査データ】



②ミカンハダニ

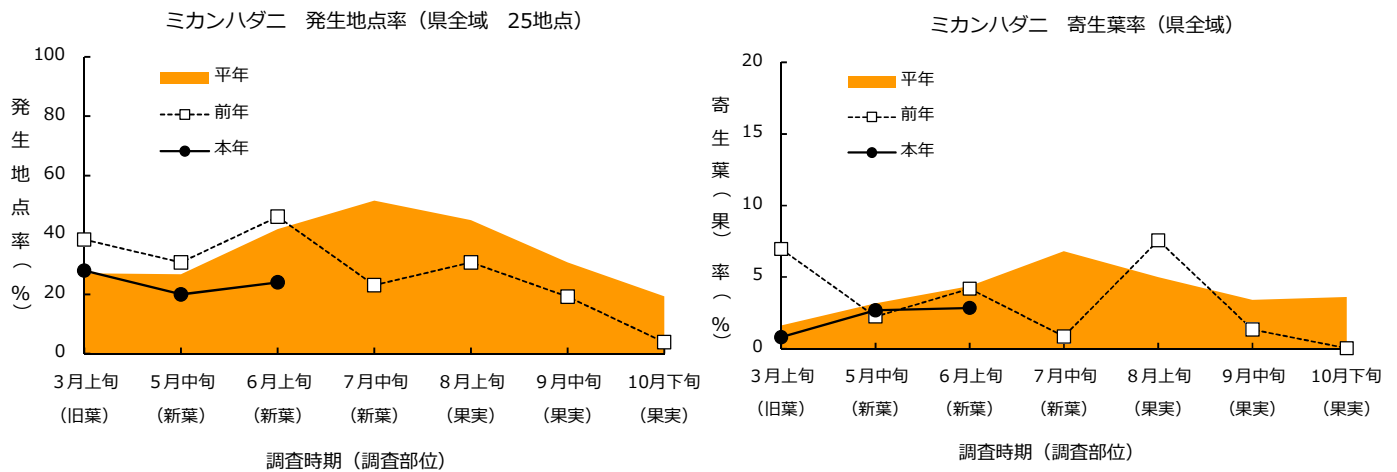
現況	やや少	予報	並
予報の根拠	(+) :多発要因, (±) :平年並み, (-) :少発要因		
<p>●巡回調査では、平年よりやや少ない発生であった(±)。 ●向こう1か月の気温は高い確率が40%、降水量は少ない確率が40%と予想されている(+)</p>			



【防除上の注意事項】

- 梅雨明け後の多発を予防するため、6月中下旬に高度精製マシン油乳剤を散布する。
- マシン油乳剤散布に当たっての注意事項
 - ・7月以降の散布は果実の糖度低下につながるため、必ず6月末までに散布する。
 - ・摘果剤との近接散布により旧葉が落葉する場合がありますので注意する。
 - ・高温時の散布は薬害を発生しやすいので、朝夕の涼しい時間帯に所定濃度範囲の低濃度で散布する。

【巡回調査データ】



3

果樹全般病害虫について

①チャノキイロアザミウマ



チャノキイロアザミウマは、主に防風樹として利用されているイヌマキやサンゴジュなどが発生源となり、果樹園に飛来する。この虫に加害されると果皮に傷を生じ、外観が著しく悪くなる。

これまでの研究により、気温の推移から成虫の発生ピークを予測することが可能となった。防除適期は、発生ピーク予測日の7日前～ピーク当日である。表1を参考に防除を行う。

表1. チャノキイロアザミウマ成虫発生ピーク予測日

今後の気温	発生ピーク予測日		
	第2世代	第3世代	第4世代
平年より高い (+1℃)	6月16日	7月7日	7月25日
平年並	6月17日	7月9日	7月28日
平年より低い (-1℃)	6月18日	7月12日	8月1日

※生口島アメダスデータに基づく

②カメムシ類



県内におけるチャバネアオカメムシの集合フェロモントラップへの累積誘殺数は、5月第6半旬の時点で、県内全域において「並」以下となっている。

今後、飛来が増加する可能性もあるため、ほ場内の見回りを定期的に行い、飛来が認められた場合は速やかに防除を実施する。

表 2. 各調査地点におけるチャバネアオカメムシ累積誘殺数（5月第1～6半旬）

設置地点	チャバネアオカメムシ累積誘殺数（頭）				
	本年	現況	平年※1	多発年※2	多発年以外※3
東広島市安芸津町	24.0	少	65.1	55.5	69.2
福山市神辺町	20.0	並	14.9	29.4	8.7
世羅郡世羅町	33.4	並	33.0	42.8	33.1
庄原市東城町	1.0	少	10.2	10.4	10.2
庄原市高野町	13.0	並	12.6	15.3	9.8

※1 各調査地点の平年とは、過去10年の平均を示す

※2 多発年とは、注意報を発表した年（平成24、26、令和2年）の平均値を示す

※3 多発年以外とは、平成23年以降で、平成24、26、令和2年を除いた年の平均値を示す

4

向こう1か月の気象情報

中国地方1か月予報

（広島地方气象台6月3日発表，6月5日から7月4日までの天候見通し）

- ・天気は平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
- ・向こう1か月の平均気温は、高い確率が40%、降水量は少ない確率が40%、日照時間は多い確率が40%です（図1）。
- ・1週目の気温は、平年並み及び高い確率が40%、2週目は平年並みが50%、3～4週目は、平年並みが40%です（図2）。

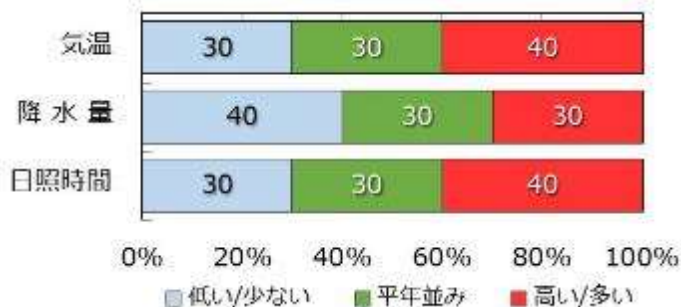


図1 向こう1か月の平均気温・降水量・日照時間の各階級の確率(%)

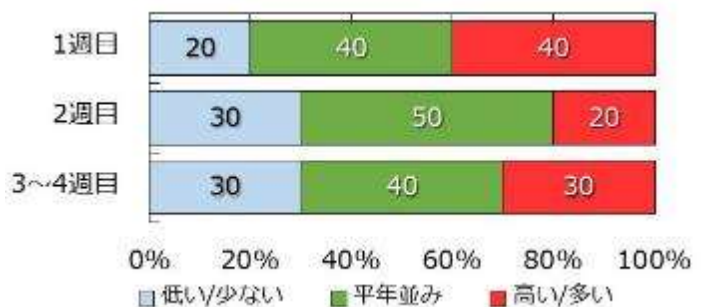


図2 向こう1か月の気温経過の各階級の確率(%)